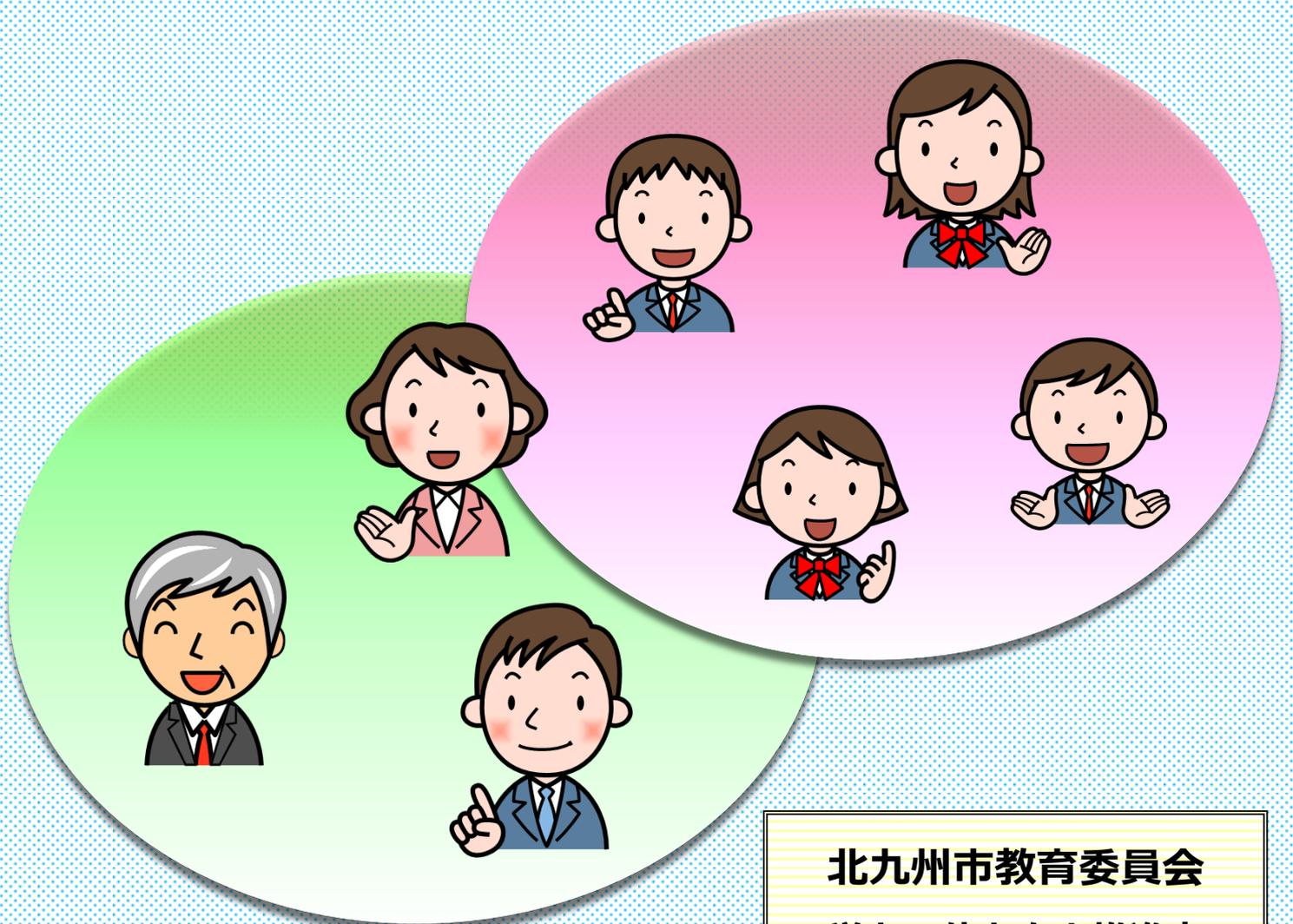


「めあて・まとめ・振り返り」

Q & A 集

中学校版



北九州市教育委員会
学力・体力向上推進室

目 次

◇授業構想のポイントシート

・「まとめ」から「めあて」をつくる5ステップ	1
・一人一人の子どもが自ら書く「まとめ」	2
・「振り返り」の3つの視点と具体的な指示	3
・授業構想シート	4

◇「めあて」に関するQ&A

Q 1. 「めあて」は、なぜ必要なのですか？	6
Q 2. 子どもが「めあて」をもつことができるようにするには、 どうすればよいですか？	7
Q 3. 教師は、「めあて」をどのようにつくったらよいですか？	8
Q 4. 「まとめ」から「めあて」をつくるとは、どういうことですか？	9
Q 5. 「まとめ」から「めあて」をつくった例を具体的に教えてください。	10

◇「まとめ」に関するQ&A

Q 6. 「まとめ」は、なぜ必要なのですか？	12
Q 7. 一人一人の子どもが、「まとめ」を書くことが できるようにするためには、どうすればよいですか？	13
Q 8. 子どもが自分の言葉で「まとめ」を書くのは、難しいのですが…	14
Q 9. 「まとめ」は、すべての教科等で書くのですか？	15

◇「振り返り」に関するQ&A

Q10. 「振り返り」は、なぜ必要なのですか？	16
Q11. 「振り返り」は「まとめ」と同じではないのですか？	18

付けたい力を明確にした授業

「まとめ」から「めあて」をつくる5ステップ

ステップ①

教科等・学年の目標(ねらい)を把握する。

学習指導要領解説

ステップ②

単元の目標(ねらい)を把握する。

北九州スタンダード
カリキュラム

ステップ③

評価規準を基に、本時のねらいを確認する。

北九州スタンダード
カリキュラム

ステップ④

本時の「まとめ」を考える。

子どもの言葉で

ステップ⑤

本時の「めあて」を考える。

子どもの言葉で

その授業で付けたい力が明確になる！ = 授業の骨組みができる！

5ステップで、「本時のねらい」⇔「まとめ」⇔「めあて」を
整合させることが大切です。



一人一人の学びを確かなものにする授業

一人一人の子どもが自ら書く「まとめ」

◇ 一人一人が「まとめ」を書くことで…

① 子どもが「何を」学んだかはっきりと自覚することができる！

② 子どもの思考力・判断力・表現力等を育てることができる！

③ 教師が「ねらい」を達成できたか評価することができる！

◇ 一人一人が「まとめ」を書くことができるようにするには…

・子どもの意識が「めあて」から「まとめ」までつながる授業展開
・本時のポイントやキーワードを明確にした板書 が大切です。



問題 次の連立方程式を加減法を用いて解きなさい。教科書 P.40 例2 次の連立方程式を加減法を用いて解きなさい。

(1) $\begin{cases} 2x+4y=8 & \dots\text{①} \\ 2x+3y=5 & \dots\text{②} \end{cases}$ (2) $\begin{cases} x+2y=4 & \dots\text{①} \\ 2x+3y=5 & \dots\text{②} \end{cases}$

(2)が解けない理由…x, yの係数がそろっていないから。

めあて 等式の性質を利用して係数がそろっていない連立方程式を解く方法を説明しよう。

見直し

【1班】 ①を2倍すればいい。	【2班】 ①×2より $\begin{cases} 2x+4y=8 \\ -2x+3y=5 \end{cases}$ y=3 で解ける。	【3班】 (1)しか解けない。	【4班】 解けるけど、説明できない。	【5班】 ①×2で(1)と同じ式をつくらばいい。	【6班】 $\begin{cases} x+2y=4 \\ 2x+4y=8 \end{cases}$
--------------------	--	--------------------	-----------------------	-----------------------------	---

まとめ よって(x, y)=(-2, 3)

係数のそろっていない連立方程式は、等式の性質を用いて方程式の両辺を何倍かして、一方の文字の係数の絶対値をそろえれば、加減法を用いて解くことができる。

①の両辺を2倍

xの係数を2にそろえた

$$\begin{cases} x+2y=4 & \dots\text{①} \\ 2x+3y=5 & \dots\text{②} \end{cases}$$

$$\begin{cases} ① \times 2 \text{より} & 2x+4y=8 & \dots\text{①}' \\ 2x+3y=5 & \dots\text{②} \end{cases}$$

$$\begin{cases} ①' - ② \text{より} & y=3 & \dots\text{③} \end{cases}$$

③を①に代入して

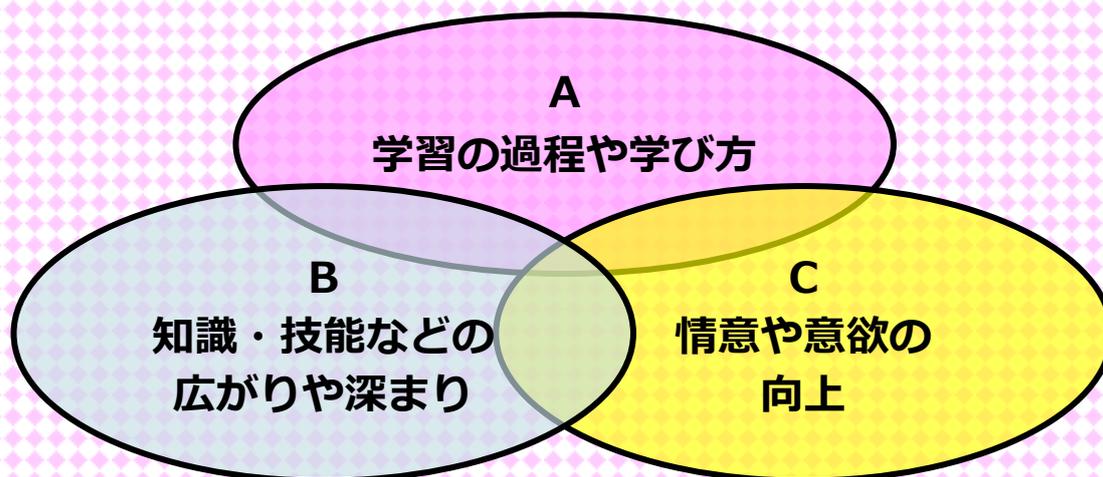
$$\begin{aligned} x+2 \times 3 &= 4 \\ x+6 &= 4 \\ x &= 4-6 \\ x &= -2 \end{aligned}$$

小中9年間を通して、すべての学級、すべての教科において一人一人に「まとめ」を書かせる指導を、段階的・継続的に行いましょう。大切なことは、学校全体でベクトルをそろえて取り組むことです。



「振り返り」の3つの視点と具体的な指示

◇ 「振り返り」の3つの視点



◇ 「振り返り」の3つの視点と具体的な指示の例

A 学習の過程や学び方

「最もためになったアドバイスと、その理由を書きましょう。」
「今日の学習がよく分かった（分からなかった）理由を書きましょう。」
「今日の実験で、最もがんばっていた友達とその理由を書きましょう。」

B 知識・技能などの広がりや深まり

「今日一番の『なるほど！』と、その理由を書きましょう。」
「今日の学習を通して、新たに気付いたことや考えたことを書きましょう。」
「『つまり』、『例えば』という言葉を使って、今日の学習をまとめましょう。」

C 情意や意欲の向上

「今日の学習で、新たに生まれた課題や疑問を書きましょう。」
「学習前と学習後の自分を比べて成長・変化したことを書きましょう。」
「次の学習で、やってみたいことを書きましょう。」

1時間の授業で、A・B・Cのどの視点について振り返らせ、具体的にどのような指示を出すのか構想することが大切です。



授業構想シート (学校 年) 【単元名】「 」 (時間 / 全 時間)

■本単元のねらい

<本時のねらい> ※ めざす生徒の姿

○

【まとめ】 ※ <ねらい>を生徒の言葉で

【めあて】 ※ まとめとの整合性 生徒の言葉で

【めあて】を生み出す働きかけ

【追究する活動や働きかけ】主体的・対話的な学び

○

【手だて】

○

【支援を要する生徒への手だて】

○

【手だて】

【振り返り】

板書計画

授業構想シート (中2年)【単元名】「連立方程式」(4時間/全14時間)

■本単元のねらい

- ・ 数量の関係を2つの文字を用いて等式に表し、これを目的に応じて計算したり変形したりする能力を伸ばすとともに、連立方程式の解法について理解と習熟を図り、連立方程式を用いて問題解決する能力を養う。
- ・ 連立方程式の解法の要点である「1つの文字を消去して、一元一次方程式を導く」ことを繰り返し行わせるとともに、生徒の興味・関心が高まるような身近な課題を取り上げるなどして、連立方程式の有用性を実感できるようにする。

学習指導要領解説や北九州スタンダードカリキュラム等を参考に設定。

<本時のねらい> ※ めざす生徒の姿

- 加減法で連立方程式を解くためには、消去する文字の係数の絶対値をそろえる必要があることに気付くことができるようにする。

評価規準を基に設定。

【まとめ】 ※ <ねらい>を生徒の言葉で

係数のそろっていない連立方程式は、等式の性質を用いて方程式の両辺を何倍かして、一方の文字の係数をそろえれば、加減法を用いて解くことができる。

<ねらい>と一致した「まとめ」になっているか。

【めあて】 ※ まとめとの整合性 生徒の言葉で

等式の性質を利用して係数がそろっていない連立方程式を解く方法を説明しよう。

「まとめ」に向かう「めあて」になっているか。

【めあて】を生み出す働きかけ



【追究する活動や働きかけ】主体的・対話的な学び

問題意識をもたせる活動になっているか。

【手だて】

【支援を要する生徒への手だて】

【手だて】

【振り返り】

板書計画

Q 1. 「めあて」は、なぜ必要なのですか？

A 1. 一人一人が学習の見通しをもち、学級全体で学習のゴールをイメージできるようにするためです。



◆ こんなこと、ありませんか…

【中2 数学科「連立方程式」】

めあて 係数がそろっていない連立方程式を解こう。



この連立方程式は係数がそろっていないから、どうやって計算したらよいのか、全然分からないよ。



わたしは、もう連立方程式の解き方を知っているから、解をすぐに求められるよ。

求め方を考えさせたかったのに、解き方を知っている子どもが解法と解を発表して、授業が終わってしまったな。



この「めあて」では、子どもは学習の見通しがもてないため、意欲を高めることが難しいですね。また、思考力等を育てる授業となりにくいです。



◇ 例えば、このようにしてみると…

めあて 等式の性質を利用して
係数がそろっていない連立方程式を解く方法を説明しよう。



係数がそろっている連立方程式は学習してきたよね。係数がそろっていれば解けそうだね。



今日のゴールは係数がそろっていない連立方程式を解く方法を説明することね。等式の性質を利用すれば、上手く説明できないかな。

「めあて」に「見通し」が入ったことで、自分の考えをもつことができる子どもが増えました。また、ゴールが明確に示されたことで、個人思考や学び合いでの「目的意識」が明確になり、より主体的に学習に取り組む姿が見られるようになりました。



「めあて」には「個の思いや問い」を学級全体で「共有」できるよさがあります。多くの教科等で「めあて」を設定するのはこのためです。教科等の特性を考えながら、「めあて」を設定することが大切です。* 1



* 1 道徳の時間の導入では、「めあて」ではなく、「ねらい」を基に価値への方向付けを行い、子どもに課題意識をもたせた上で学習を進めます。ただし、価値への方向付けを「めあて」として示し、学習を進める場合もあります。

Q2. 子どもが「めあて」をもつことができるようにするには、
どうすればよいですか？

A2. 子どもに「なぜ？」「～したい！」という課題（問題）意識を
もたせるための教師の働きかけが必要です。



◆ こんなこと、ありませんか…

【小5 社会科「工業生産を支える人々」】

今日の「めあて」は何がいいですか？

そう言われても…。ええっと、何がいいのかな？

自動車づくりをする人の学習だから…。先週、工場見学に行ったよね。

◇ 例えば、このようにしてみると…

☆ 自分の予想とのずれを感じさせることで、「めあて」をもたせる導入例



（自動車工場の製造ラインの写真を提示して）
自動車が作られていく様子を見学して、工場働く人の数について、どう思いましたか？

ぼくは、もっとたくさんの方が働いていると予想していたけど、思ったより人が少なかったよね。



たくさんのロボットが自動車を組み立てていたよね。
人がする仕事とロボットがする仕事がちがうのかな？



めあて 人がする仕事とロボットがする仕事の
ちがいを調べて、説明しよう。

子どもの「なぜ？」「～したい！」を引き出すためには、子どもに
「ずれ」を感じさせることが大切です。

- ・ 既習事項との「ずれ」
- ・ 自分の予想との「ずれ」
- ・ 友達の考えとの「ずれ」
- ・ 生活経験や知識との「ずれ」 など



Q3. 教師は、「めあて」をどのようにつくったらよいですか？

A3. 「教科等・学年・単元の目標(ねらい)」「本時のねらい」や「子どもの実態」等を基につくります。



◆ こんなこと、ありませんか…



この本に、本時の「めあて」は「〇〇〇。」と書かれていたから、この「めあて」が絶対正しいはず。

わたしたちが「めあて」を考えても、結局、いつも先生の決めたとおりの「めあて」になるな。最初から先生が「めあて」を出せばよいのに。



◇ このようにしてみましょう

【中2 数学科「連立方程式」】

① 教科等・学年の目標(ねらい)を把握する。

学習指導要領解説

② 単元の目標(ねらい)を把握する。

北九州スタンダードカリキュラム

第2学年 単元 2 連立方程式 (総時数14時間)

(1) 本単元のねらいと手だて

- 数量の関係を2つの文字を用いて等式に表し、これを目的に応じて計算したり変形したりする能力を伸ばすとともに、連立方程式の解法について理解と習熟を図り、連立方程式を用いて問題解決する能力を養う。
- 連立方程式の解法の要点である「1つの文字を消去して、一元一次方程式を導く」ことを繰り返し行わせるとともに、生徒の興味・関心が高まるような身近な課題を取り上げるなどして、連立方程式の有用性を実感できるような授業内容や授業形態を工夫する。

下線部が、単元のねらいですね。



③ 評価規準を基に、本時のねらいを確認する。

北九州スタンダードカリキュラム

(4) 展 開

主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点	評価規準及び評価方法
<p><2>連立方程式の解き方を考える ⑤</p> <p>(1) 2つの連立方程式から1つの文字を消去する方法を知る。</p> <p>(2) 加減法を理解し、加減法の解き方に慣れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 連立方程式は、2つの文字のうち1つを消去することにより、一元一次方程式に帰着して解けることを理解させる。 ○ 加減法で解くためには、消去する文字の係数の絶対値をそろえる必要があることに気付かせる。 	<p>【見】加減法や代入法を一次方程式の解き方と帰着して考えることができる。 (発言・ノート分析)</p> <p>【技】加減法や代入法で連立方程式を解くことができる。 (ノート分析)</p>

<本時のねらい>
等式の性質を基に、係数のそろっていない連立方程式の解法を考え、解を求めることができるようにする。

④ 本時の「まとめ」を子どもの言葉で考える。

子どもの実態（興味・関心や経験、定着度）や、つまずきやすいところも考えて設定することが大切です。



⑤ 本時の「めあて」を子どもの言葉で考える。

Q4. 「まとめ」から「めあて」をつくるとは、どういうことですか？

A4. 「めあて」と「まとめ」を整合させるということです。

本時のねらいを基に、子どもに書かせる「まとめ」を考えます。

そして、「まとめ」に向かうための「めあて」を考えるようにします。



「授業構想シート」を使って、「まとめ」から「めあて」をつくって
みましょう。まず、単元のねらいと本時のねらいを確かめます。



※ 「授業構想シート」の一部です。

【中2 数学科「連立方程式」】

＜単元のねらい＞ ※ 単元全体を通してめざす子どもの姿

○連立方程式を目的に応じて計算したり変形したりする能力を伸ばすとともに、連立方程式の解法について理解と習熟を図り、連立方程式を用いて問題解決する能力を養う。



＜本時のねらい＞ ※ 本時の学習を通してめざす子どもの姿

○等式の性質を基に、係数のそろっていない連立方程式の解法を考え、解を求めることができるようにする。



次に、本時のねらいを子どもの言葉で表して、「まとめ」を考えます。



まとめ 係数のそろっていない連立方程式は、等式の性質を用いて方程式の両辺を何倍かして、一方の文字の係数の絶対値をそろえれば、加減法を用いて解くことができる。



そして、子どもが「まとめ」に向かうことができるように、本時の学習の「めあて」を考えます。



めあて 等式の性質を利用して
係数がそろっていない連立方程式を解く方法を説明しよう。

このように、「授業構想シート」を使うことで、「まとめ」から「めあて」をつくることができ、「めあて」と「まとめ」が整合します。



Q5. 「まとめ」から「めあて」をつかった例を具体的に教えてください。

A5. 例えば、次のような「めあて」と「まとめ」が考えられます。

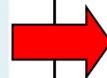


◇ 「まとめ」①

【中1 保健体育科「ハードル走」】

まとめ

なめらかなハードリングをするためのポイントは、ハードルの遠くから踏み切ること、抜き足のひざを折りたたんで横に寝かせること。



友達のハードルの様子を見て、踏み切りの位置やリード足、抜き足というポイントに気付くことができるようにするという本時のねらいを基に、「まとめ」を設定しました。

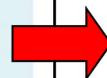


◇ 「まとめ」②

【中2 社会科歴史的分野「日本の近代化」】

まとめ

日露戦争の結果、日本は朝鮮での勢力を拡大でき、大陸進出のきっかけとなったが、列強国からは警戒されるようになった。また、中国国内では日本の影響を受け、清を倒して近代的な国家をつくろうとし、辛亥革命が起こった。



日露戦争が日本と外国との関係にどのような影響を与えたのかについて、日本や外国の置かれている立場を踏まえて多面的・多角的に考察することができるようにするという本時のねらいを基に、「まとめ」を設定しました。

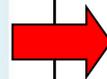


◇ 「まとめ」③

【小4 理科「ものあたたまり方」】

まとめ

金ぞくは熱せられたところから順に遠くの方へとあたたまっていく。



金属の温まり方と温度変化を関係付けて考察し、金属は、熱せられた部分から順に温まること（伝導）を理解することができるようにするという本時のねらいを基に、「まとめ」を設定しました。



「まとめ」は「めあて」に対する答えと考えることもできます。
「めあて」と「まとめ」が整合するようにしましょう。



◇ 「まとめ」①と整合した「めあて」例

【中1 保健体育科「ハードル走」】

めあて 友達のアドバイスを手がかりにして、
なめらかなハードリングをするための
ポイントを見つけよう。

「なめらかなハードリングをする」というゴールを明確にした「めあて」を設定することで、本時に身に付けたい技能を明確にすることができました。ただし、授業では、「なめらか」の定義を明確にしたり、どのように習得するのかという方法を補ったりしていく必要があると考えます。



◇ 「まとめ」②と整合した「めあて」例

【中2 社会科歴史的分野「日本の近代化」】

めあて 日露戦争が起きたこととその結果が、
その後の国際情勢にどのような影響を
与えたのだろうか。

「日露戦争が、国際情勢にどのような影響を与えたのか」という問いを「めあて」にすることで、何を解決すればよいかを明確にすることができました。学習を通して、「日露戦争が日本や外国に与えた影響について、資料を根拠に、多面的・多角的に考察する力」を身に付けることができるようにすることを意識して指導します。



◇ 「まとめ」③と整合した「めあて」例

【小4 理科「もののあたたまり方」】

めあて
金ぞくはどのようにあたたまっていくのだろうか。

生活の中にある物の温まり方について話し合い「金属はどのように温まっていくのだろうか」という問いから「めあて」を設定し、解決したいことを学級全体で共有しました。授業では、金属に塗ったろうがどこから溶けたかを観察することで、実験結果を基に、温度の変化と金属の温まり方を関係付けて考察する力を身に付けることができるようにすることを意識して指導します。



Q 6. 「まとめ」は、なぜ必要なのですか？

A 6. 子どもが「めあて」に対して「まとめ」を書くことで、何を学んだか、はっきりと認識することができるからです。

教師は、一人一人の子どもがねらいを達成できたか、評価することができます。



◆ こんなこと、ありませんか…

今日は、たくさん意見が出て、よかったですね！

話合いでたくさん意見が出たけど、今日の授業で何が分かったのか、はっきりしなかったな。もやもやするな。

◆ こんなことも、ありませんか…

「まとめ」を、先生が黒板に書きます。ノートに写しましょう。（「係数のそろっていない連立方程式は、等式の性質を用いて…」）

「まとめ」は、いつも黒板を写せばいいのよね。自分で考えなくていいから、楽だよね。

これでは、本時の学習を通して、一人一人の子どもがねらいを達成できたかどうか、客観的に評価することができませんね。



◇ 一人一人が「まとめ」を書くこと…

【中2 数学科「連立方程式」】

まとめ 文字の前の数字をそろえれば、
連立方程式は解ける。

「文字の前の数字」と書いているということは、等式の性質と項の概念が理解できていないかもしれないな…。この生徒に対する支援が必要だな。

まとめ 等式の性質で両辺を何倍かして係数を
そろえれば、加減法で連立方程式は解ける。

この生徒は、「等式の性質」のよさに気付いているな。

一人一人が本時の学習内容について、自分の言葉でまとめることは、思考力・判断力・表現力等を育成することにつながります。教師は、子どもが「まとめ」を書いているときに机間指導をして、ねらいが達成できていない子どもを支援します。



Q7. 一人一人の子どもが、「まとめ」を書くことができるようにするためには、どうすればよいですか？

A7. 例えば、本時のねらいにつながる「キーワード」を板書し、その「キーワード」を基にして、書くようにする手だてがあります。

一人一人の子どもが「まとめ」を書くことができるように、板書を工夫してみましょう。



【中2 数学科「連立方程式」】

問題 次の連立方程式を加減法を用いて解きなさい。

(1) $\begin{cases} 2x+4y=8 & \dots\text{①} \\ 2x+3y=5 & \dots\text{②} \end{cases}$ (2) $\begin{cases} x+2y=4 & \dots\text{①} \\ 2x+3y=5 & \dots\text{②} \end{cases}$

(2)が解けない理由…x, yの係数がそろっていないから。

めあて 等式の性質を利用して係数がそろっていない連立方程式を解く方法を説明しよう。

見直し

【1班】 ①を2倍すればいい。	【2班】 ①×2より $2x+4y=8$ $-2x+3y=5$ $y=3$ で解ける。	【3班】 (1)しか解けない。	【4班】 解けるけど、説明できない。	【5班】 ①×2で(1)と同じ式をつくらばいい。	【6班】 $x+2y=4$ $x+2y=4$
--------------------	--	--------------------	-----------------------	-----------------------------	------------------------------

まとめ よって(x, y)=(-2, 3)

係数のそろっていない連立方程式は、等式の性質を用いて方程式の両辺を何倍かして、一方の文字の係数の絶対値をそろえれば、加減法を用いて解くことができる。

教科書 P.40 例2 $\begin{cases} x+2y=4 & \dots\text{①} \\ 2x+3y=5 & \dots\text{②} \end{cases}$

①×2より $2x+4y=8 \dots\text{①}'$
①' - ②より $y=3 \dots\text{③}$
③を①に代入して
 $x+2\times 3=4$
 $x+6=4$
 $x=4-6$
 $x=-2$

①の両辺を2倍
xの係数を2にそろえた

◇ キーワードを明確に示した上で…

係数のそろっていない連立方程式を解くには、どんなことに気を付けるとよいですか？ 黒板の「キーワード」を使って、ノートに書きましょう。

「両辺」「係数」がキーワードだね！

等式の性質で両辺を何倍かして係数をそろえれば、加減法で連立方程式は解ける。

板書の工夫は、一人一人の子どもが「まとめ」を書くための一つの手だてです。子どもの意識が「まとめ」に向かうような授業展開をすることが大切です。



Q 8. 子どもが自分の言葉で「まとめ」を書くのは、難しいのですが…

A 8. 小中9年間を通した、段階的・継続的な指導が必要です。

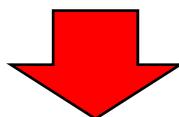


はじめは、自分の言葉で「まとめ」を書けない子どもがいると思います。でも、そのままでは、いつまでたっても書くことができません。次のような段階を意識して、毎時間、子どもの実態に応じた指導を継続していくことで、書くことができるようになります。



☆ <子どもの実態に応じた段階的な指導例>

段階	目指す姿	教師の手だて
第1段階	「まとめ」に使うキーワードを挙げる。	① 子どもの発言にキーワードが含まれていたら、価値付ける。 ② キーワードを色チョークや囲み等で目立つように黒板に書く。
第2段階	提示されたキーワードを基に「まとめ」を書く。	③ 「めあて」の答えに当たる部分を「まとめ」の文章に書くことを指導する。 ④ 複数のキーワードの関係が分かるように文章を書くことを指導する。



目指す姿	本時のキーワードを見付け、それらを関連させて「まとめ」を書く。
------	---------------------------------

小中9年間を通して、すべての学級、すべての教科において一人一人に「まとめ」を書かせる指導を、段階的・継続的に行いましょう。大切なことは、学校全体でベクトルをそろえて取り組むことです。そうすることが、思考力・判断力・表現力等を効果的に育成することにつながります。



Q9. 「まとめ」は、すべての教科等で書くのですか？

A9. 教科等の特質、単元の展開、ねらい等によって「まとめ」ではなく、「振り返り」を書かせることで学習をまとめる場合があります。



☆ 単元や展開、ねらい等によって「まとめ」を書かない例

【国語科、体育科、保健体育科、外国語科等】

国語科

〈めあて〉 「ごん」は、どんなきつねか、物語をもとに考えたことを話し合おう。

〈振り返り〉 「おれと同じひとりぼっちの兵十か。」という言葉から、「ごん」は、自分のことも「ひとりぼっち」だと思っていることが分かるので、さびしがりやだと思いました。でも、〇〇さんの考えを聞いて、やさしい面もあることに気付きました。次の時間は～。

国語科は、単元や展開、本時のねらい等によって「まとめ」を書かない場合があります。

○例えば、「考えを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと」が主なねらいの場合、「まとめ」は考えを共有している板書全体等となり、取り立てて「まとめ」を書かないことがあります。その場合、「振り返り」で、互いの感じ方の違いへの気付きを書きます。

○適切な「書き方」「話し方・聞き方」を考える学習や、「言葉のきまり」を見付ける学習などでは、「めあて」に対して学級全体で至った結論を「まとめ」に書くことができます。

☆ 教科等の特質により「まとめ」を書かない例

【生活科、外国語活動、道徳の時間等】

生活科

〈めあて〉 ようちえんのおともだちが、たのしくあそべるように、くふうしよう。

〈振り返り〉 ようちえんのおともだちがたのしめるように、あそびのルールをかんとんにしました。こんどいっしょにあそぶとき、よろこんでくれるといいです。

生活科では、具体的な活動や体験を通して、子ども一人一人に、対象に対する「気付き」が生まれるようにすることが大切です。この「気付き」は、全体で吟味したり、一般化したりするものではなく、「振り返り」の中でそれぞれが表します。

外国語活動

〈めあて〉 友達の好きなものを予想して、インタビューをしよう。

〈振り返り〉 自分の好きなものを伝えるときは、「アイ ライク～」と言ってから、好きなものを言えばいいと思いました。インタビューで6人の友達と話せたので、楽しかったです。

外国語活動の目標は、文法の習得ではなく「コミュニケーション能力」の育成です。「振り返り」の中で、それぞれが、自分なりにどう取り組み、どのような「気付き」があったかを書きます。

「まとめ」を考えることで、学級全体で分かったことを共有できるというよさがあります。しかし、教科等の特質や、単元の展開やねらい等によって、「まとめ」を書かない場合があります。その場合は、学習したことを「振り返り」に書きます。



Q10. 「振り返り」は、なぜ必要なのですか？

A10. 子どもが自分の変容を自覚するためです。

子どもの変容には、A「学習の過程や学び方」、B「知識・技能などの広がりや深まり」、C「情意や意欲の向上」の3つの視点が考えられます。



◆ こんなこと、ありませんか…



今日の学習を通して思ったこと、考えたことを自由に書きましょう。



今日の学習は、いろいろ分かったので、とても楽しかったです。
また、次の学習もがんばりたいです。

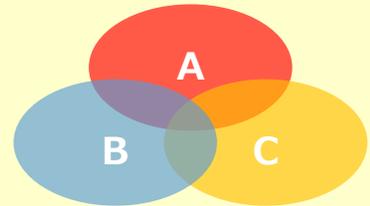


「感想を自由に書きましょう」という指示だけでは、子どもは「いろいろ分かった」や「楽しかった」、「がんばった」という漠然とした「振り返り」を書くことになります。

「振り返り」を書かせる際に、次のような「3つの視点」を基に、具体的な指示をすることが大切です。



◇ 「3つの視点」と具体的な指示の例



A 学習の過程や学び方

「最もためになったアドバイスと、その理由を書きましょう。」
「今日の学習がよく分かった(分からなかった)理由を書きましょう。」
「今日の実験で、最もがんばっていた友達とその理由を書きましょう。」

B 知識・技能などの広がりや深まり

「今日一番の『なるほど!』と、その理由を書きましょう。」
「今日の学習を通して、新たに気付いたことや考えたことを書きましょう。」
「『つまり』、『例えば』という言葉を使って、今日の学習をまとめましょう。」

C 情意や意欲の向上

「今日の学習で、新たに生まれた課題や疑問を書きましょう。」
「学習前と学習後の自分を比べて成長・変化したことを書きましょう。」
「次の学習で、やってみたいことを書きましょう。」

◇ 中1 保健体育科「ハードル走」の例

(P. 6の「めあて」に対応)



「A 学習の過程や学び方」(友達との学び合いのよさ)と「B 知識や技能の獲得」について、書かせたかったので、「友達のアドバイスを受けてできたこと、よかったことを書きましょう」という指示をしました。

振り返り

Aさんからのアドバイスを受けて、今までハードルの近くから踏み切っていたことが分かった。遠くから踏み切るのには、少し勇気が必要だったが、友達が応援してくれたので挑戦した。すると、高く跳びすぎずに、ハードルの上すれすれに跳べたので嬉しかった。次の時間は、友達にコツを教えたい。

◇ 中2 社会科歴史的分野「日本の近代化」の例

(P. 6の「めあて」に対応)



「B 獲得した知識や技能の広がりや深まり」について書かせたかったので、「今日の学習を通して、新たに気付いたことや考えたことを書きましょう」という指示をしました。

振り返り

日露戦争の勝利は、日本の国際的立場を優位にしたのでとてもよかったと考えていた。しかし、いろいろな国の立場から考えると、イギリスやアメリカを刺激したのは、よくなかったのではないかと思うようになった。

◇ 小4 理科「もののがたまり方」の例

(P. 6の「めあて」に対応)



「C 情意や意欲の向上」について書かせたかったので、「今日の学習で新たに生まれた課題や疑問を書きましょう」という指示をしました。

振り返り

金ぞくは、全体が同時にあたたまると予想していたけど、今日の学習で、熱せられたところから順に遠くの方へとあたたまることが分かりました。水や空気も同じようなあたたまりかたをするのか、ぎ問に思いました。

学習内容やねらい、子どもの実態などに応じて、A・B・Cのどの視点について書かせるか、授業の前に明確にしておきましょう。



Q11. 「振り返り」は「まとめ」と同じではないのですか？

A11. 「まとめ」は、「めあて」に対して、学級全体でどのような結論に至ったかを示したものです。「振り返り」は、授業の前後で自分が変容したことを示したものです。



「好きなもの」を紹介しよう スピーチをする【中1 国語科】
の指導例を見てみましょう。

「好きなもの」を紹介しよう

めあて
分かりやすくスピーチをするために、大切なポイントを見つけよう。

大切なこと
聞き手にとって分かりやすい順序・構成になっている。

内容

話し方
声の大きさ、速度、発音が聞き取りやすい。

まとめ
自分の伝えたいことが伝わるスピーチにするためには、聞き手の立場に立って話の構成や順序を工夫し、伝えたいことを整理することが大切である。

学級全体でどのような結論に至ったかを示したもの

振り返り(例)

写真を見せながら説明する場面を後半にしていたが、みんなの反応を見ながら、最初の方がよいと感じた。友達からも同じ内容のアドバイスをされたので、変えようと思う。次の時間には、話す項目が多すぎるので、本当に伝えたいことだけにしぼるようにする。ふれあい合宿でのあいさつ文を考えるときに生かしたい。

A 学習の過程や学び方

B 知識・技能などの
広がりや深まり

C 情意や意欲の向上

この「振り返り」には、A・B・Cのすべての視点が書かれています。視点をもち、「振り返り」を書かせることで、子どもの気付きや考えが明らかになり、子どもの学びをより適切に評価することができます。



おわりに



「めあて」「まとめ」「振り返り」は、つながっているのですね。

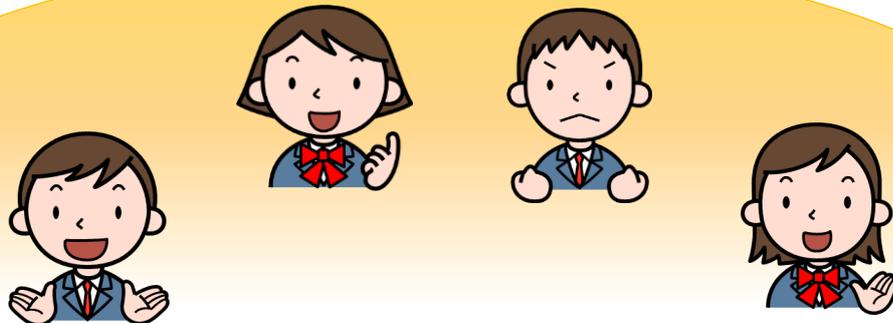
- ・「めあて」があるから、本時の学習内容を「まとめる」視点が明確になる。
- ・「めあて」で学習の見通しをもつと、「振り返り」で学習の過程や学び方を想起しやすくなる。
- ・「まとめ」があるから、「振り返り」で、自己の成長に気付きやすくなる。

ということがよく分かりました。

大切なことは、子どもが本時でどんな力を身に付けるのかという「ゴール」を意識して指導することですね。そうすれば、「めあて」、「まとめ」、「振り返り」の内容が、本時のねらいに沿ったものになり、「まとめ」や「振り返り」の内容から、子どもにどんな力が身に付いたかを評価することもできますね。



今回は、1単位時間の授業について、「まとめ」から構想しましたが、同じことが、単元を構想するときにもいえます。単元の終わりに、子どもがどのような力を身に付けておけばよいのかということ意識して、単元を構想することが大切ですね。



平成 29 年 9 月 初版発行

「わかる授業」の基礎・基本マネジメント研修 1
～授業のスタンダード化と「めあて・まとめ・振り返り」の質の向上を目指して～

「めあて・まとめ・振り返り」Q & A 集

北九州市教育委員会 学力・体力向上推進室
〒803-8510 北九州市小倉北区大手町 1 番 1 号
電話：093-582-3445